チーム力重要性増す

●働きやすい環境

―転職する人が増えたり、国が女性の活用を促したりするなど働き方について考える機会が増えました。みなさんにとって働きやすい環境とは何ですか。

加藤　女性が働き続けるためには周囲の協力や理解が必要になります。男性も育児休暇を取得していいですし、そもそも仕事だけでなく家庭を大切にして人生を豊かにしていくべきだと思います。子どもを育てることで得られるアイデアもありますし、私自身も将来は子どもに働く姿をみせて、輝いていると思ってもらいたいです。仕事以外の時間も充実させてイノベーションを起こしていきたいです。

磯部　昔と比べて転職する人が増えている中、企業は愛社精神を育む取り組みが求められると思います。確かに、仕事とプライベートを分ける考え方も大切ですが、勤めている会社が好きだと思えるような制度があれば長く働く人が増えるのではないでしょうか。例えば、最近では社内にバーやリラクゼーション施設を設けるなどの例があるようです。そういった社内インフラを整えることで、仕事で多少つらいことがあっても、「この会社のために頑張ろう」と思い、乗り越えられることもあると思います。

吉川　私は社員の興味と個性を大切にする環境が必要だと実感しています。最初、今回の論文を書いて提出したとき、上司から「全然おもしろくない」と言われて何度も書き直しました。そして「自分が好きなこと書けばいいし、もっと変なことを書いてもいいくらいだ」とアドバイスを受けました。人はおもしろいことにとことん突き進む傾向があります。一方で、少しでも遠慮をして萎縮すると、良いアイデアがあっても埋もれてしまうことになります。その人なりの感性を大切にしたキャリアプランを形成する環境づくりが大切です。個性がないとダイバーシティー（多様性）は成り立ちません。

木場　上司とか周りの人と話すハードルが低ければ低いほどいいと思います。気軽に周囲と話せる会社の雰囲気があれば、開発の際も不明点の早期解決につながりますし、仕事の効率が向上します。自分もそういった会社の雰囲気作りに貢献していきたいです。

穂垣　確かに居心地が良い会社は、上司と話しやすい雰囲気があると思います。あと磯部さんが言うように社内インフラは重要で、食堂の料理がおいしいとやる気が出ますね。

木村　自分も実際、先輩方から「今何をしているの」などよく声をかけてもらっているので仕事がしやすいです。部長や課長がこまめにミーティングしてくださっていて感謝しています。普段、部署が違うとなかなか話す機会がない人もいるので、できるだけコミュニケーションをとる機会をいただけると、早く職場の雰囲気になじめるようになると思います。

佐野　当社は最初に社内研修が1カ月間あり、技術や製品の使い方などを学びます。初めてのことだらけで仕事がきついし、自分がパソコンとにらめっこしていると先輩方が声をかけてくださったり、困ったことに対するアドバイスをしたりしてくれます。また、自分は会社の部活動に参加し、サッカーと野球をやっています。社内でも事業部ごとにやっていることが違うし、普通に会社に行っているだけだとなかなか交流できない人がいます。事業部外のことを求めるお客さまもいますので、他の事業部の人と面識があると質問しやすいです。これからも積極的に交流していきます。実はちょうど昨日、会社の方に誘われてマラソン大会に出場したところです。

三輪　まだ研修中の身ではありますが、多少意見がぶつかってもそれを恐れず、活発に意見交換していけるような人間関係や職場づくりを実践していきたいです。

座談会に出席した産業論文入賞者ら

頑張れる制度や施設　磯部さん

「個性」を大切にする　吉川さん

磯部さん

気軽に話せる雰囲気　木場さん

他部署との交流の場　佐野さん

木場さん

●自身の将来像

―自身の将来像を教えてください。

吉川　技術を磨いて特に半導体検出器の設計を極めていきたいです。チームの一員として半導体検出器の設計を任せてもらえるようになるとともに、自分の設計が他のチームに役立ててもらえるよう適切なアドバイスと提案のできるプロフェッショナルを目指します。半導体設計は電子デバイスの基礎技術なので、重要な存在になれるのではないかと思っています。

木村　先輩は聞いたら何でも答えてくれる素晴らしい方々ばかりです。まだ勉強中で全然想像できないけれど、自分も後輩から頼られる先輩になりたいです。今はプレス機械の知識しかありませんが、電気関係の知識も極めていきたいと思っています。また仕事だけじゃなくてしっかり円満な家庭を築き、地元に貢献していきたいです。

磯部　論文に書いたような良い製品を世の中に伝える仕事を通じて、いつか会社や社会に貢献していきたいと思います。お客さまが求めている製品を理解することに加え、デザインとかブランド作りといった部分についても勉強して、よりストレートに製品の良さを伝えられるようになりたいです。今、営業で担当している店舗に対しても、自分なりのアイデアを提案し、売り上げ拡大に貢献できるよう実践していきます。

佐野　もっとニーズを引き出せるようになりたいです。これを実現するための課題として製品知識と人間関係づくりが挙げられます。製品知識がないと、お客さまが何を求めているのかわからないですし、人間関係がうまくいかないと困っていることを聞き出せません。今はお客さまからの問い合わせに対し、自分で一つひとつ調べるなど実践形式で勉強しています。一方で、世代が違う方もたくさんいらっしゃって、人間関係づくりは一筋縄ではいかない。とにかくねばり強く訪問を続けて「また佐野が来ている」と思われるようになりたいです。

加藤　いつかは海外で働き、当社の製品を海外に広めて多くの人の生活を豊かにしていきたいです。今はアジアを中心にビジネス展開していますが、世界はもっと広く、ビジネスチャンスはまだまだたくさんあると思います。

三輪　仕事以外でも人間関係をしっかり築いて、目に見えない意見やニーズを引き出す力を身につけ「こいつに聞けば安心だ」と思われる存在になりたいです。東南アジアやアフリカなど発展途上国では、まだITインフラが整っていない場所がたくさんあります。誰からも信頼される人間になって、会社の代表として現地に出向き、IT環境の整備に貢献していきたいです。

穂垣　「発電所は地図に残る仕事だ」と先輩から言われて感激したのを覚えています。いつか自分が関わった発電所を子どもにみせて、「自分が作った」と自信をもって伝えたいです。また、発電所の建設には多くの人が関わっています。コミュニケーション能力を磨き、社内外の人から好かれるような人間になって仕事を円滑に進めていきたいです。

木場　当たり前のことをできるようにするとともに、ある特定分野のプロフェッショナルに成長し、誰からも頼られる存在になりたいです。社内にはいわゆる有識者と呼ばれる方がたくさんいらっしゃいます。人から頼られるプロになるためには、誰よりも知識をつけなければなりません。まずは今関わっている機能について知識をつけていきます。

◇

―みなさん、将来ビジョンを明確に持っていて頼もしく思いました。今後の活躍をお祈りしています。今日はありがとうございました。

三輪さん

途上国の発展に貢献　三輪さん

地図に残る仕事する　穂垣さん

加藤さん

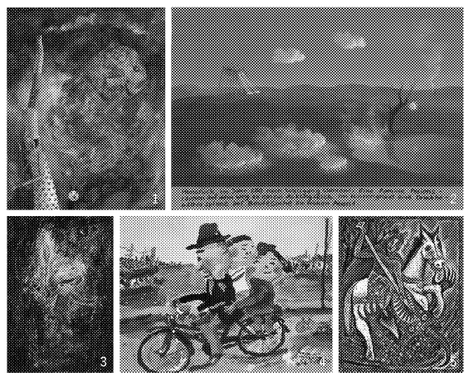
電気の知識も極める　木村さん

世界舞台にビジネス　加藤さん

FROM HAND TO HAND
手から手へ展

絵本作家から子どもたちへ　3.11後のメッセージ

「手から手へ展」は、日本の絵本作家たちが中心となり、
「3.11後の世界から私たちの未来を考える」というテーマで
世界の仲間に呼びかけて作品を募った展覧会です。
震災から1年後の2012年3月、イタリアのボローニャを皮切りに、
1年間ヨーロッパ諸国を巡回し、世界の人々に想いを届けてきました。
2013年、さらに多くの絵本作家が参加し、日本巡回が始まりました。
7か国110人の作家たちが未来を生きる子どもたちへ想いを込めて描いた作品。
そのメッセージが見る人の心に届き、人々の手から手へと伝わることを願います。



1.降矢奈々「内部被曝」2012年　2.ミヒャエル・ゾーヴァ「核融合するイモムシ家族一家」2011年　3.荒井良二「ニュー原始くん」2012年　4.長谷川義史「もう一度この町で」2012年　5.スズキコージ「ドラゴンを退治する聖ゲオルギオス」2012年

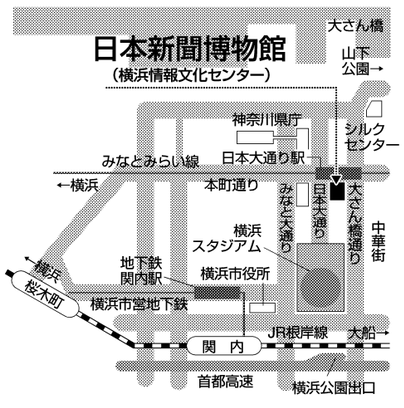
子どもたちの未来のために
これ以上、負の遺産を
増やしてはならない。
誰かの犠牲の上に成り立つ
豊かさから決別したい。
降矢奈々（絵本作家・手から手へ実行委員会代表）

2013年10月26日（土）－12月23日（月・祝）

会場：日本新聞博物館2階 企画展示室　主催：東京新聞、日本新聞博物館　共催：手から手へ実行委員会、日本国際児童図書評議会（JBBY）

特別展示　ライブペインティングによる共同作品「絵本作家たちのゲルニカ」
あべ弘士、スズキコージ、降矢奈々、ペテル・ウフナール、松成真理子、ミヒャエル・ゾーヴァ

開館時間：午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）　休館日：月曜日（祝日・振替休日の場合は次の平日）
入館料：一般・大学生＝500円　高校生＝300円　中学生以下＝無料　※各種割引制度あり
交通アクセス　○みなとみらい線「日本大通り」駅　3番情文センター口直結　○JR根岸線・横浜市営地下鉄「関内」駅　徒歩10分
○横浜市営バス「日本大通り駅県庁前」バス停　徒歩1分　○首都高速「横浜公園出口」　車3分



日本新聞博物館 The Japan Newspaper Museum　〒231-8311　神奈川県横浜市中区日本大通11　横浜情報文化センター内
TEL：045-661-2040　FAX：045-661-2029　http://newspark.jp/newspark/